

# 平成20年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく香川県の調査結果について(香川県版)

## I 養介護施設従事者等による高齢者虐待

相談・通報のあったケースについては、市町もしくは県で虐待の事実確認を行い、虐待の事実が認められたケースに対しては、再発防止のため施設内における職員研修の実施や改善計画提出等の指導を行っている。

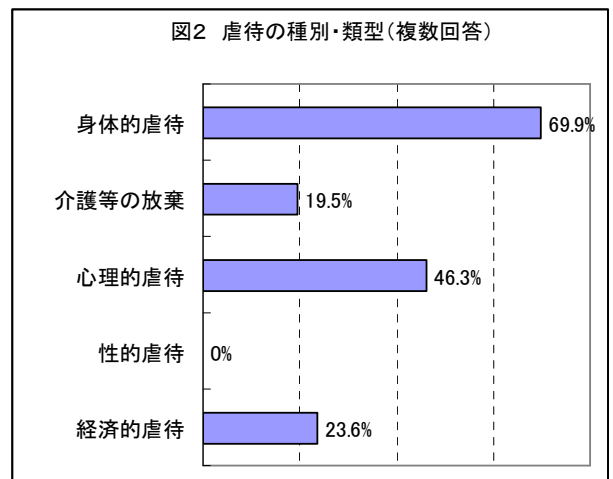
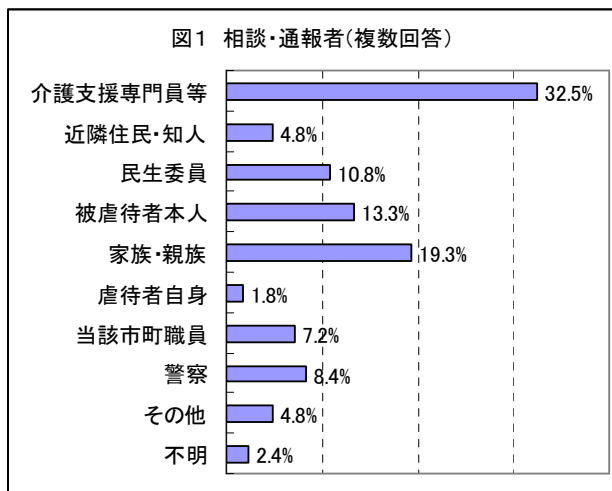
H19年度と比較すると相談・通報件数は3件増加、虐待の事実が認められた事例件数は同件数となっている。

- 1 相談・通報件数 7件
- 2 虐待の事実が認められた事例 1件(1人)
- 3 高齢者虐待に関する概要
  - ①被虐待高齢者
    - a)性別 女性(1人)
    - b)年齢階級 90歳代
    - c)要支援・要介護状態区分 要介護4
    - b)虐待の種別・類型 身体的虐待
  - ②養介護施設・事業所の種類 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
  - ③虐待を行った養介護施設等の従事者 介護職員

## II 養護者による高齢者虐待

H19年度より相談・通報件数は24件増加、虐待を受けた又は受けたと判断したケースは23件増加している。各市町では被虐待高齢者と虐待者を分離するほか、介護保険サービスの利用につなげるなど被虐待者・養護者双方の支援を行っている。

- 1 相談・通報件数 166件
  - 虐待を受けた又は受けたと判断したケース 123件(125人)
- 2 高齢者虐待に関する概要
  - ①高齢者虐待に関する相談や通報の割合は介護支援専門員・介護保険事業所職員が32.5%と最も多く、次いで家族・親族(19.3%)、被虐待者本人(13.3%)の順となっている。
  - ②虐待の種別については、身体的虐待が69.9%と最も多く、次いで心理的虐待(46.3%)、経済的虐待(23.6%)、介護等の放棄(19.5%)の順となっている。



- ③被虐待高齢者の性別については、女性が80.0%となっている。  
 年齢階級については、80歳～89歳が47.2%と半分近くを占めている。

図3 被虐待高齢者の性別

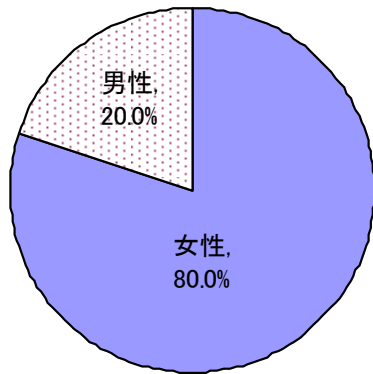
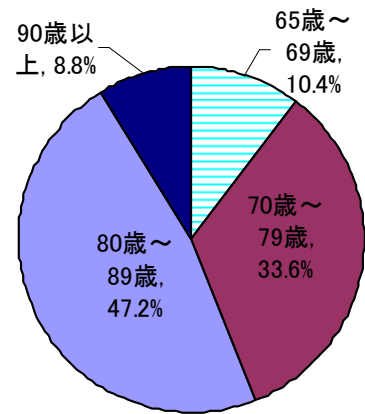


図4 被虐待高齢者の年齢



- ④虐待者との同居・別居の状況については、被虐待高齢者の86.2%は虐待者と同居している。  
 虐待者としては息子が47.1%と最も多く、次いで息子の配偶者(嫁)(13.6%)、夫(12.1%)の順となっている。

図5 同居の有無

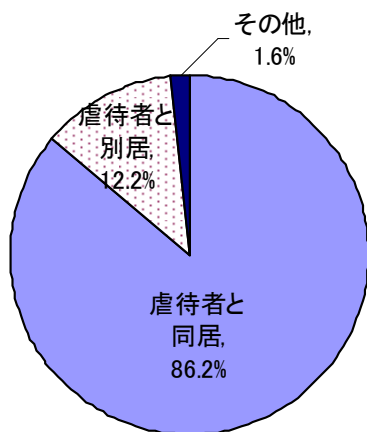
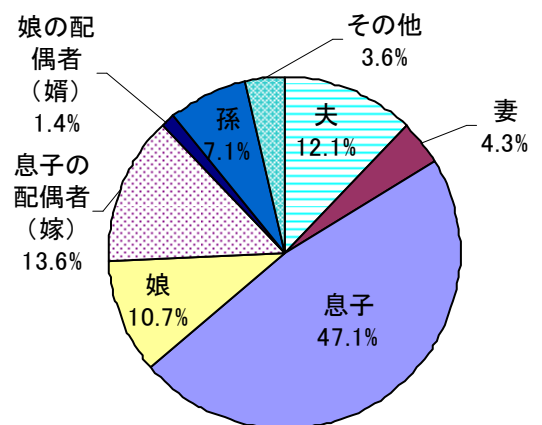


図6 虐待者との関係



⑤被虐待高齢者の63.2%は介護保険の認定を受けている。その中で要介護3が21.5%と最も多く、次いで要介護1(17.7%)、要介護2・要支援2(15.2%)の順となっている。

図7 被虐待高齢者の要介護認定申請状況

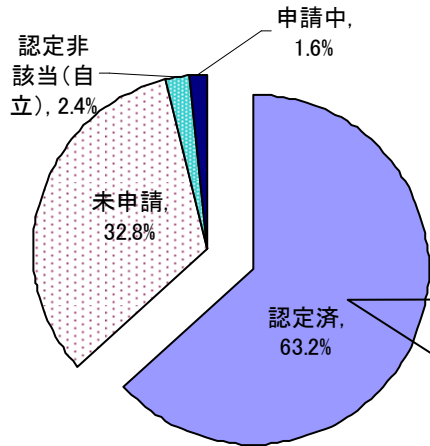
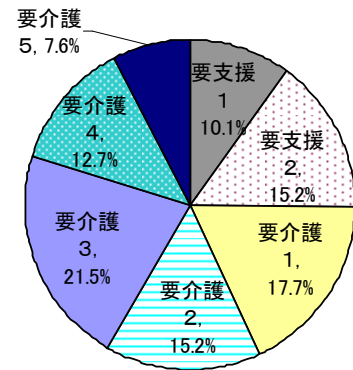
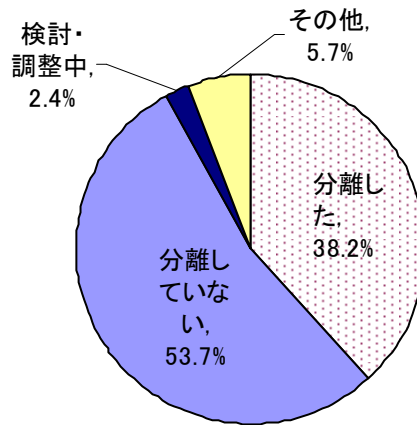


図8 要介護認定者の要介護状態区分



⑥虐待者と被虐待高齢者への対応について、分離したのは38.2%であり、53.7%は分離せず関係者が双方を支援しながら自宅での生活を続けている。

図9 虐待への対応状況



平成20年度 高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果 (香川県集計)